

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2020年 第8週（2月17日～2月23日）

今週のコメント

～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ 減少するも注意報超え続く」

第8週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,869例であり、前週比11.8%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、水痘の順で、定点あたり報告数はそれぞれ5.05、2.73、0.40、0.35、0.33である。

感染性胃腸炎は前週比13%増の995例で、泉州7.55、南河内6.69、中河内6.15、大阪市西部6.11、北河内5.26であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は12%増の538例で、堺市4.53、北河内3.52、泉州3.45である。

RSウイルス感染症は9%減の78例で、南河内1.19、泉州0.90、大阪市西部0.78であった。

咽頭結膜熱は1%減の68例で、中河内0.65、三島0.53、泉州0.50である。

水痘は55%増の65例で、中河内0.60、大阪市北部0.57、豊能0.55であった。

インフルエンザは6%減の3,249例で、定点あたり報告数は10.98である。中河内15.47、北河内15.12、大阪市北部13.95、大阪市西部13.43、堺市12.21、南河内10.75、豊能10.41であった。

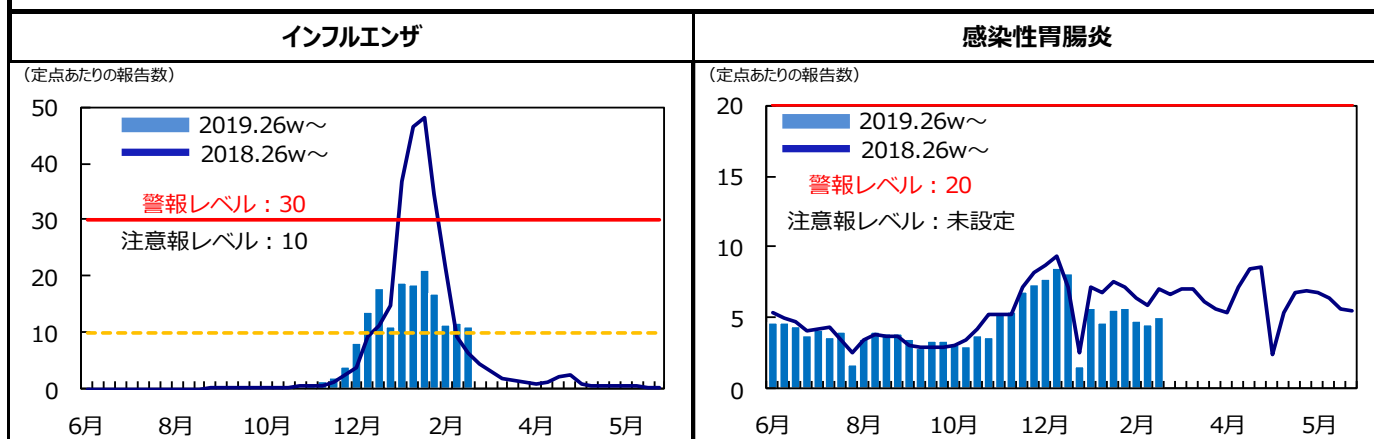


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2020年 第8週2月17日～2月23日）

第8週の順位	第7週の順位	感染症	2020年 第8週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2019年 第8週の 定点あたり 報告数	2020年第8週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	5.05	13%増	7.06	2歳_13%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.73	12%増	2.56	4歳_15%
3	3	RSウイルス感染症	0.40	9%減	0.86	1歳_37%
4	4	咽頭結膜熱	0.35	1%減	0.38	2歳_21%
5	6	水痘	0.33	55%増	0.26	8歳_20%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	10.98	6%減	6.49	10-14歳_28%

第8週のコメント

～百日咳～ 生後3か月からの予防接種が重要

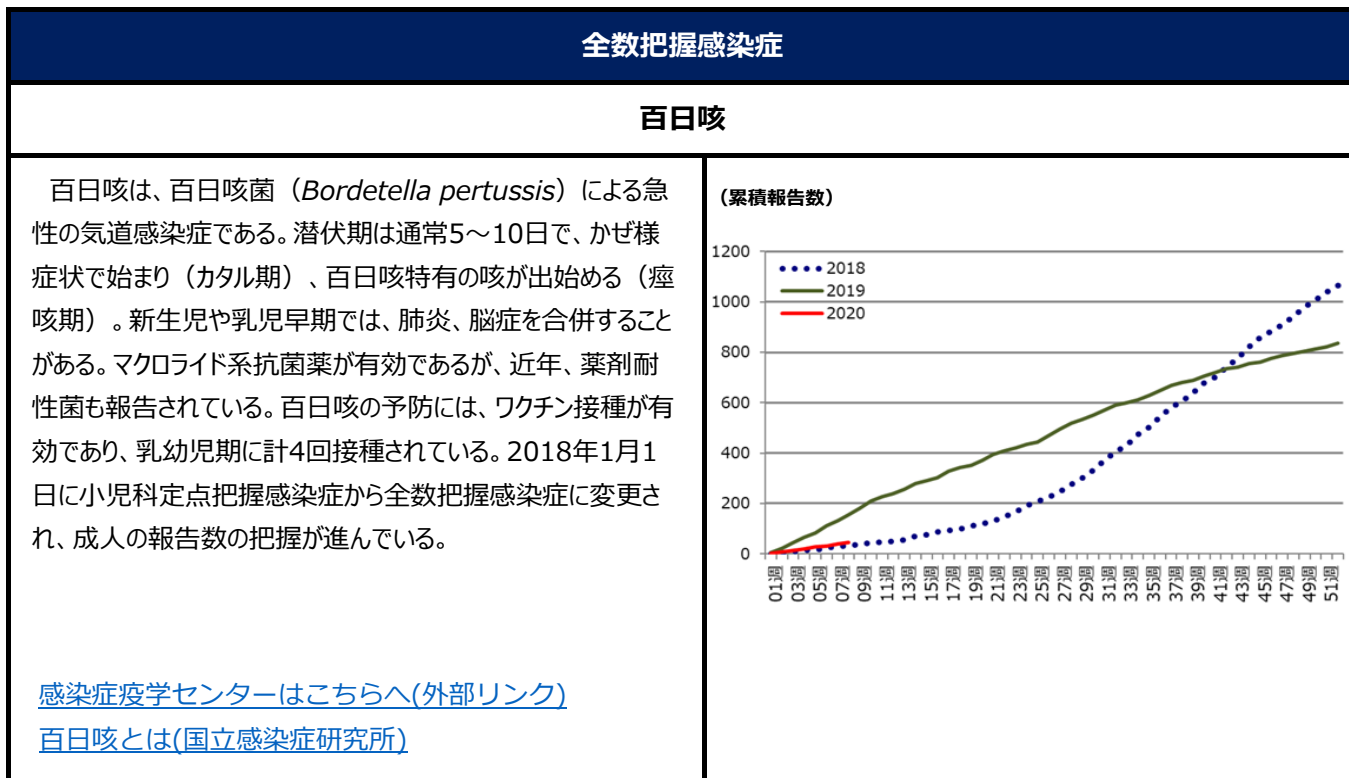


表2. 大阪府全数報告数（2020年 第8週2月17日～2月23日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】発生動向調査＞全数報告 をご覧ください。
 新型コロナウイルス感染症は、指定感染症として定める政令が施行された2月1日以降の集計です。）

	疾患名 〔 〕内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告 数	豊 能	三 島	北 河 内	中 河 内	南 河 内	堺 市	泉 州	大 阪 市	府 内 累 積 報 告 数
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1							1		9
5 類感染症	ウイルス性肝炎（B型）	1								1	3
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2								2	21
	侵襲性肺炎球菌感染症	4				1			1	2	37
	梅毒	6	1			1		1		3	129
	百日咳	6			4		1		1		45
	風しん	1								1	3
結核 (2019年12月分)	結核 新登録患者数：145名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 52名) (府内累積報告数 1,636名、内 肺・喀痰塗抹陽性 638名)										

(2020年2月25日 集計分)